

1、職務の理解

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人生を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境や形でそのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
-----	--

(2) 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・研修課程の全体像をイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率、効果的に学習できる素地の形成を促す。・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じ見学を組み合わせるとなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解させる。
内容	<p>1-1多様なサービスの理解</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護保険サービス(居宅、施設)○ 介護保険外サービス <p>1-2介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <ul style="list-style-type: none">○ 各種の介護サービスなどにおける介護現場でのそれぞれの仕事内容○ サービス提供現場の具体的なイメージ○ ケアプランに基づき開始されるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れ○ チームアプローチ○ 他職種との協働

2. 介護における尊厳の保持・自立支援

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	介護職が、利用者に尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望をそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。・具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。・虐待を受けている高齢者への対応方法について指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。
内容	<p>2-1人権と尊厳を支える介護</p> <ul style="list-style-type: none">○人権と尊厳について○介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支えている専門職であることを自覚○虐待防止法・身体拘束禁止などの行ってはいけないこと行動例○介護分野におけるICFの基本的考え方○生きがいに繋がる生活の質(QOL)の考え方 <p>2-2自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none">○自立支援○介護予防○利用者の自立支援○本人の残存能力

3、介護の基本

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	介護職に求められる専門性と職業倫理に必要性に気づき、職務に対するリスクとその対応性のうち重要なものを理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・具体例を示し介護職に求められる専門性に対する理解を促す。・介護におけるリスクをに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人では対応せず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であることを実感できるように促す
内容	<p>3-1 介護職の役割、専門性と多職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護環境の特徴の理解○ 介護の専門性○ 介護にかかわる職種○ 事例や体験談を交えて介護職への理解や多職種との連携についての重要性 <p>3-2 介護職の職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none">○ 職業倫理○ 介護職における行動規範○ 社会的な責任や姿勢についての理解 <p>3-3 介護における安全の確保とリスクマネジメント(2時間)通学1時間+通信1時間</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護における安全の確保○ リスクマネジメント・事故防止・安全対策○ 介護事故における危険予知(ヒヤリハット)の事例○ 感染症対策における「衛生的手洗いの基本」の実施 <p>3-4 介護職の安全(通信のみ1時間)</p> <ul style="list-style-type: none">○ 介護職の心身の健康管理○ 介護職のセルフケア○ 介護職のセルフケアの予防的取り組み

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの流れ、各専門職の役割・責務についてその概要のポイントを習得する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	・介護保険制度・障害者自立支援法を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者自立支援法、その他の制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
内容	4-1介護保険制度 ○ 日本の高齢社会の状況 ○ 介護保険制度の創設の背景や状況・課題 4-2医療との連携とリハビリテーション ○ 事例や体験談を交えて介護職への理解や多職種との連携についての重要性 3-2介護職の職業倫理 ○ リハビリテーション医療の基礎的理解 ○ リハビリテーションを構成する職種と役割・連携 4-3障害者自立支援制度およびその他の制度 ○ 障害者福祉の背景と動向 ○ 介護における安全の確保 ○ 障害者自立支援制度 ○ その他の障害児者のサービス

5. 介護におけるコミュニケーション技術

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限とすべき(とるべきではない)行動例を理解する。
-----	--

(2) 内容

指導の視点	・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることに気付きを促す。 ・チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
内容	5-1 介護におけるコミュニケーション ○ 信頼関係を形成するための基礎 ○ 他者理解と共感・受容 5-2 介護におけるチームのコミュニケーション ○ 介護に係る情報の共有化の手段としての記録の意義・目的などの理解 ○ 報告の必要性・コミュニケーション技術の実際 ○ 実際に事故報告書を記載

6. 老化の理解

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的学習すべき事項を理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
内容	6-1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 ○ 加齢・老化に伴う生理的变化 ○ 加齢・老化に伴う日常生活への影響 6-2 高齢者と健康 ○ 高齢者の疾病 ○ 高齢者の健康状態の確認 ○ 高齢者の生活上の留意点

7. 認知症の理解

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	介護において認知症を理解することの重要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解する
-----	---

(2) 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。・複数の具敵的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則について理解を促す。
内容	<p>7-1 認知症を取り巻く状況</p> <ul style="list-style-type: none">○ 認知症のケアの理念○ その人らしさを支援するパーソンセンタードケア <p>7-2 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理</p> <ul style="list-style-type: none">○ 認知症の概念、○ 認知症の原因疾患とその病態○ 原因疾患別ケアポイント○ 健康管理等の必要性 <p>7-3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活</p> <ul style="list-style-type: none">○ 認知症の人の生活障害○ 認知症の人の心理・行動の特徴、○ 認知症の人への対応 <p>7-4 家族への支援</p> <ul style="list-style-type: none">○ 認知症の受容過程での援助方法○ レスパイトケア

8. 障害の理解

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	<ul style="list-style-type: none">・介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。・高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
内容	<p>8-1 障害の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none">○ 障害の概念○ ICFの考え方○ 障害者福祉の基本理念○ 「できている状態」を伸ばす支援 <p>8-2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識</p> <ul style="list-style-type: none">○ 身体障害児・者の基本的理解と支援の方法○ 知的障害児・者の基本的理解と支援の方法○ 障害の受容(利用者の立場からの視点) <p>8-3 家族の心理、かかわり支援の理解</p> <ul style="list-style-type: none">○ 家族の心理的負担(ストレス)○ 家族への支援

9 こころとからだのしくみと生活支援技術

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。人体の構造や機能に関する知識を習得できる。介護サービスの提供方法を理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら視聴覚教材や模型などを使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●基本知識の学習 9-1介護の基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> ○ 理論に基づく介護 ○ 法的根拠に基づく介護 9-2 介護に関するこころのしくみの基礎的知識 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習と記憶 ○ 感情と意欲の基礎的理解、 ○ 自己概念と生きがい、 ○ 人体各部の名称と動きに関する基礎知識 ○ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ○ こころの持ち方が与える影響 ○ 身体の状態がこころに与える影響 9-3 介護に関するからだのしくみの基礎的知識 <ul style="list-style-type: none"> ○ 人体各部の名称と動きに関する基礎知識 ○ 骨、関節、筋に関する基礎知識 ○ ボディメカニクスの活用 ○ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○ 自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○ こころとからだを一体的に捉える ○ 利用者の様子の普段との違いに気がつく視点

9 ところとからだのしくみと生活支援技術

(1) 達成目標・評価の基準

ね ら い	基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。人体の構造や機能に関する知識を習得できる。介護サービスの提供方法を理解する。
-------------	---

(2) 内容

指 導 の 視 点	介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら視聴覚教材や模型などを使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ●生活支援技術の講義・講習 9-4 生活と家事 <ul style="list-style-type: none"> ○ 家事と生活の理解 ○ 家事援助に関する基礎的知識と生活支援 9-5 快適な居住環境整備と介護 <ul style="list-style-type: none"> ○ 快適な居住環境に関する基礎知識、 ○ 高齢者、障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○ 介護保険による住宅改修等 9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ul style="list-style-type: none"> ○ 整容に関する基礎知識 ○ 整容の各支援技術 9-7 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ul style="list-style-type: none"> ○ 移動、移乗に関する基礎知識、 ○ さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ○ 利用者、介護者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○ 移動と社会参加の留意点と支援 9-8 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事に関する基礎知識、 ○ 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法 ○ 食事形態とからだのしくみ ○ 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

9 ころとからだのしくみと生活支援技術

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。人体の構造や機能に関する知識を習得できる。介護サービスの提供方法を理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら視聴覚教材や模型などを使って理解させ、具体的な身体の一部の名称や機能等が列挙できるように促す。
内容	<p>●生活支援技術の講義・講習</p> <p>9-9入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ○ さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ○ 楽しい入浴を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 <p>9-10 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 排泄に関する基礎知識 ○ さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ○ 爽快な排泄を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 <p>9-11睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 睡眠に関連する基礎知識 ○ さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ○ 快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 <p>9-12死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 終末期に関する基礎知識ところとからだのしくみ ○ 生から死への過程、「死」に向き合う心の理解 ○ 苦痛の少ない死への支援

9 ころとからだのしくみと生活支援技術

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。人体の構造や機能に関する知識を習得できる。介護サービスの提供方法を理解する。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら視聴覚教材や模型などを使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
内容	<ul style="list-style-type: none">● 生活支援技術演習9-13 介護過程の基礎的理解○ 介護過程の目的・意義・展開、介護過程○ チームアプローチ○ 個別援助計画の作成○ アセスメント・介護計画・介護手順の作成9-14 総合生活支援技術演習○ 生活の各場面での介護について、ある状態の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する視点の流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の提供○ 事例の提示→ころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題

9 こころとからだのしくみと生活支援技術

(1) 達成目標・評価の基準

ねらい	研修全体を振り返り、本研修で学んだことについて再確認を行う。
-----	--------------------------------

(2) 内容

指導の視点	・研修で学んだこと、今後学ぶべきことなどについて受講生内で発表してもらう。また、利用者の生活を支援する根拠に基づいた介護の要点について再確認する。
内容	10. 振り返り通学4時間のみ 10-1 振り返り ○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づいた介護についての要点をまとめる 10-2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○ 今後、継続的に学ぶべきこと ○ 研修修了後における継続的な研修 ○ 具体的にイメージできるような事業所等における実例の紹介